

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2020/11/24
所属学部・ 研究科・学府	融合理工学府
所属学科・専攻	創成工学専攻デザインコース

1. 留学先について

留学先大学名	Glasgow Schol of Art											
留学先所属学部等	Design Innovation											
留学期間	出発日	2019/9/4	入学日	2019/9/16	修了日	2020/1/31	帰国日	2020/3/23				
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/>	民間アパート	<input type="radio"/>	その他()							
	通学時間	10分					On campus					
	通学方法	徒歩										
	居室スペース	<input type="radio"/>	個室	()	人部屋	その他()						
	共有スペース	<input type="checkbox"/>	完全個室	<input type="radio"/>	キッチン	<input type="radio"/>	トイレ	<input type="radio"/>	バス	<input type="checkbox"/>	リビング	<input type="checkbox"/>
食事	自炊	40 %	学食	10 %	外食	40 %	その他	10 %	(友達の家で食べる)			
保険	海外旅行保険(名称)	tabiho										
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入				
	その他											
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)											
	成田空港	⇄	エジンバラ(飛行機)	⇄	グラスゴー(バス)							

2. 留学にかかった費用について

総費用	124万 円							
出どころ								
自費	貯金	14万 円	アルバイト	円	その他	円		
援助	両親	70万 円	家族・親戚	円	その他	円		
奨学金	JASSO	40万 円	その他名称()	円				
その他	その他()							円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	円	その他()	円
留学中	海外送金	キャッシング	その他()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	
住居にかかった費用	
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			30万	円
海外旅行保険			15万	円
OSSMA			2万	円
査証・在留許可証			0	円
住居			37万	円
食費				円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費			0	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			0	円
その他 (食費)			40万	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
1 WORKING TOWARDS THE PREFERABLE	正規	10ECT	有		無
2 DESIGN INNOVATION - PARALLEL PROJECT	正規	20ECT	有		無
3 Winter School	ワークショップ		有		無
4			有		無
5			有		無
6			有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

Glasgow School of Art, Design Innovationは大学の学部を既に卒業した人向けの、1年で卒業する大学院で、Stage1, Stage2, Stage3の三段階に分かれた1通りのプログラムを受講することができます。私はStage1と呼ばれる基礎科目履修期間のみ在籍し、この期間は履修登録や授業科目の選択などはなく、全員が決められた授業を共通で受けていました。1月以降のStage2から、選択科目として別のコースの授業を履修することができ、これは11月くらいにあるコース説明会後に提出締め切りまでに希望を提出することで受けることが可能です。また、Stage2からService DesignやEnvironmental Designなど個々人の興味分野に分かれて授業を受けますが、これは入学前に提出した書類上で希望していたコースになります。春ごろからのStage3では卒業論文を書くため、各学生は自分の研究テーマをもってデザインの成果物を制作しながら論文を書きます。

3-2. 授業内容、方法に関して

授業は一年間で卒業するプログラムとなっていて、基本的に自分で授業を選択し履修するのではなくプログラム自体に既に計画された授業が組み込まれていました。60名近くの全学生が一つの部屋に入り、午前中は講義を受け午後にグループワークでその実践を行うという形式で授業が進みました。私が在籍していた期間のStage1の授業では、デザインとは何か、どういったプロセスで行われるものか、その際のリサーチ方法や表現の方法について学ぶことができ、既に他の専門課程を卒業した人がデザインについて入りやすい内容となっていました。基本的にデザインにおけるリサーチとユーザーの抱える課題の抽出の仕方を中心に教わる事が多く、それに付随して人にそのリサーチ結果や提案内容を伝えるための手段にも言及していました。最初は先生方から与えられたテーマについて、フィールドワークでのリサーチを行ったりその結果をグラフィックで表現するといった練習を行い、デザインプロセスについて学んだ後、今度はグループごとにインタビューなどを踏まえたユーザーリサーチと、見つけた課題やユーザーニーズに対するデザイン提案を行い、プレゼンをしました。こうした講義→実践→グループワーク→プレゼンを3回ほどそれぞれ違う授業テーマで行ったのち、Stage1の最終では4週間かけてこれまで学んだことを生かしてデザインプロセスを踏み、テーマ決めからリサーチを行って提案するまでを学生主体でグループワークを行いました。Stage1の最後では、この4週間のグループワークと並行して個人でレポートを2つ提出する必要性がありました。片方は授業内で自分たちが提案したものを1つ選びポートフォリオとしてまとめたもの、もう片方はリサーチ方法とそのリサーチ方法がとる学術的な立場、それを実際にデザインリサーチとしてどう実践したのかをリファレンスつきでまとめるものでした。後者に関しては英語のリファレンスを読み込みながら制作する必要があったため、多くの学生は開館から授業が始まるまで、授業後から閉館までの時間図書館に入り浸りながらグループワークと併走して進めていました。大変でしたが、おかげで今英文をスラスラ読めるようになりました。

3-3. 語学力について

TOEIC745で留学に行きました。
スコットランドの大学院でしたが非常にインターナショナルなクラスで、インドからきた学生、中国からきた学生、ヨーロッパから来た学生と様々でしたが、英国に留学に来るということもあり非常に語学力は高く、留学前に千葉大学のイングリッシュハウスなどで話す練習もしていたはずでしたが、それでも実力が足りずついていくことすらままならないという状況でした。

また、現地でのリサーチを行う際、スコットランド訛りの問題でインタビューを聞き取ることが非常に難しく、単純に英語ができないことに加え訛りのせいで余計聞き取れない状況にありました。

しかしながら、授業を受ける中で聞き方やメモの取り方を工夫したり、毎日英語の動画を見たり、他の学生とたくさん話すことで段々と表現や語彙力が増え、コミュニケーションもうまくいくようになったように感じます。

それはそれとして、留学前にできる限りネイティブに近いスピードの英語を字幕なしで理解できるように練習したり、余裕がありかつ話下手なのであれば留学前に英会話スクールに通って話す練習をしたりする必要はあるかと思います。

比較して日本人はあんまり積極的に意見を言ったりコミュニケーションが必ずしもスムーズにいくとは限らないので、特にコミュニケーションの上手下手や人と親しくなりやすいかどうかについて自覚しているマイナスポイントがあるのであれば、なるべく対策したほうが良いかと思います。

3-4. 図書館など学内施設について

いずれも広いとは言い難いですが、印刷機やパソコンのある図書館、食堂、教室、作業部屋、工房などがありました。建築学科であれば製図室などもあり、また学校の近くにはデザイン学科がよく材料を買う文具店もありました。

マッキントッシュが設計した校舎が2018年に焼け落ちてから、Glasgow School of Artの施設は焼け落ちた校舎を中心にいくつか建っている様々な建物に点在しています。最初の方は場所を覚えるのに苦労しました。私たちの通う大学院はHaldane Buildingという、マッキントッシュの建物から少し離れたところにある教室で開かれており、学部生が使える二階の学生部屋は広く個々人のスペースが用意されていましたが、私たちは基本的に一階の広めの教室1つと中規模の教室1つを併用して使っており、狭いながらもクラスメートとコミュニケーションがとりやすい環境でした。

学部の授業は基本的にReid Buildingという、食堂や工房やホールが複合された一番大きい吹き抜けのある建物で開かれていて、廊下ではテキスタイルなど他の学科の成果物が展示され見ることができました。図書館は朝8時から開かれ、有料で印刷を行うこともできます。若干狭めで勉強場所を探すのに苦労しますが、クラスメートとよく会えるので相談することもできました。パソコンなども使うことができ、DVDも借りたりすることができるので非常に便利でした。

3-5. その他

授業は語学力でも知識面でもついていくのがやっとならざるを得ない大変でしたが、その間にメキメキと自分の能力が上がっていく感覚がかなり刺激的でした。英語は使えば使うほど力がつくので、英語で講義がどんどん進められたり、ずっとグループワークで議論しながら作業しなければならなかった環境、また英語の本を読みながらレポートを作成するという聞く・話す・読むをすべて使う場所だったことは、本来目的としていたデザインリサーチに関する知見を深め流すことに加え、語学力もあげられるまさに一石二鳥の留学だったと感じています。

4. 生活面

4-1. 住居について

毎年先輩方は学生寮に入れると聞いていたので特に準備しなかったところ、無事抽選に落ちて二週間ほどホテル暮らしをしながら現地で部屋を探して一括払いで民間のマンションの一室を契約しました。ギリギリだったので少し割高な家賃を払い、無理やり部屋を決めました。イギリスはショートタームビザで入国したため、住居契約しないままでも入国が可能でした。

基本的に向こうの部屋は、ベッドルームが個室でキッチン(・ダイニング)とシャワーが共同なことが多く、他の入居者と度々会うためその際に挨拶することが多いです。少し高い部屋になるとベッドルームにシャワーが付くのでキッチン(・ダイニング)のみの共有になります。

部屋の住み心地は他の入居者であるルームメイトたちはかなり依存する印象でした。私のルームメイトは話してみるといい人たちでしたが、ゴミに関するトラブルが何度かあったことや、建物が全体的に古いため真冬にボイラーが壊れ友達の部屋に避難したこともありました。

部屋は石造りで、暖房も温水を循環させるタイプだったため真冬は0度近くまで下がるグラスゴーでもかなり暖かく過ごすことができました。

服を干す場所が全くないので、部屋のカーテンレールなどに無理矢理吊り下げていましたが、部屋が暖かいため冬でも乾きやすかったです。

学生街でもあるため周辺はかなり栄えており、レストランやスイーツ店、少し歩けばショッピングモール、スーパーがたくさんあるため特に買い物で苦労はしませんでしたし、観光名所や美術館なども近くにあり、散歩するだけでも見所が多い場所で住み心地は良かったです。

4-2. 食生活について

毎月4-5万円程度食費に使いつつ、基本的に自炊をし、たまに外食するなどしていました。スモークベーコンやチーズ、スモークサーモン、燻製タラ、パリッとしたタイプのソーセージなど日本だとあまり見かけない食材を多くみかけ食べることができました。日本のコンビニにあるような独り暮らし向けの使いきり野菜パックや一袋30円の Pasta など手軽に買える食べ物や、日本の味に近いカップ焼きそばやインスタントラーメンもありスーパーの買い物では苦労しませんでした。日本食の調味料や食材に困っても日本食コーナーやアジアスーパーに取り扱いがあるため食事に関してはおおよそ問題ありませんでした。ただ時々猛烈に本当の日本食を食べたくなるときがあっても、満足できるレストランが無かったり料理が作りづらく、ロンドンに遊びにいったときに食べた一風堂のラーメンの写真を見て飢えを凌いだことがありました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

私の部屋は家賃にインターネット代が含まれていたため、問題なくインターネット環境にアクセスすることができましたし、学校にもWi-Fiがあったため問題ありませんでした。スマートフォンは留学前に日本のキャリア契約を停止し、SIMフリーにした状態でThreeという会社のSIMカードを毎月3GB程度購入していました。

4-4. 服装について

9月ごろに留学へ行きました。このくらいの時期は晴れていることが多く、基本的に暖かで日本の春を思わせる穏やかな陽気が大きいのですが、冬になると段々にわか雨が増えたり寒くなったりし、12月では0度近くまで下がり路面が凍るくらい寒かったため、日本における秋～冬くらいの暖かい服装＋上着くらいの少し厚めの服装をしていました。

私は服に興味がなかったためほとんど買いませんでしたが、それでも寒かったため暖かいジャケットを購入する必要がありました。

スカート履いている女性が多く、私を含めた多くの女性はパンツルックかロングスカートを履いていました。Glasgow School of Artは学部は特に美術学校の色が濃く、学生はみんなお洒落でした。

4-5. 健康管理について

まず一通り歯医者で治療してもらい、また四月に健康診断を受けたときは異常がなかったのですが、嘔吐がひどく個人的に胃カメラを飲んで気になるところだけ集中的に検査してもらってから出国しました。スコットランドの秋～冬は気温は低く雨も降りやすいのですが、部屋がかなり暖かく特に風邪をひきやすいということは全くありませんでしたので終始健康でした。緯度が高いため日照時間が短く、気持ちが落ち込むとこぼす学生も多くメンタルにおける健康は若干注意する必要性がありました。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

保険、OSSMAは一度も使用していませんが、一番安い保険プランだと中々病院へ行けない状況だったため、仮に健康を害しても病院へは行けなかったかと思います。現地にNHSという病院があり、保険に入っていない場合は学校の案内でそこに加入することもできるので、心配な場合は現地の保険を利用すべきだと感じました。

4-7. 課外活動について

学内での学生主催の上映会に参加したり、クラスメートが主導で運営しているスキルアップ交流会などにも参加していた他は、図書館でデザインの書籍を読んだり友達とご飯を食べたりして過ごしました。勉学に集中したかったためサークルなどには入りませんでした。友人同士の交流で得られる経験を多く得ることができました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

リサーチの際、外部のコミュニティと積極的に連絡をとってインタビューするなどがありました。私は女性サポート団体が運営する図書館や、グラスゴーに住む女性の交流会などに参加しました。基本的にクラスメート同士の距離が近かったため、あまり学外コミュニティには参加せず友達との親睦を深めるようなしていました。

4-9. 日本から持参してよかったもの

薬、ペンタブ、ポン酢(醤油はあるけどポン酢が全然ないんです!)、ヒートテック、タイツ、メイク道具(特にアイライン)、繰り返し使えるマスク(帰国時コロナで大変だったので、重用しました)、顔に噴射する抗菌スプレー(左に同じ)、ヘアゴム、ヘアピン、ウェットティッシュ、ぺんてるのサインペン(丁度良いサインペンが全然なかったです)

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

浄水するキット、コピック、本、傘(フードで十分でした)、味噌汁(普通に買えました)、ファブリース、ティッシュ

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

意見を言えなかったとき、グループメンバーからそれはそれはイライラされて嫌みを言われるまでいってしまったので、気が引けてもしっかり自分の考えをもって主張することが大事だと感じました。タバコをよく吸う人が多いようで、そこでコミュニケーションをとって仲良くなってる人が多い印象もありました。大きく分けるとヨーロッパ側の人たちとアジア側の人たちで流行りや感覚がまとまっていて、交遊関係も意図的に関わらないと自然と人種で固まりがちでした。How are you?から会話が始まるので、I'm fineしかレパートリーがないと会話が終了するため、返し方を色々考える必要性がありました。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

11月、イタリアのベネチアビエンナーレに行きました。また、12月は同じくヨーロッパに留学に来ていた友人とイギリス中を旅行し、1月はポルトガルへ行きました。
2月以降は本来であれば7月まで通う予定だった次の大学への手続きにドイツへ移動し、現地で日本から旅行にきた友人と合流してドイツ中を旅行しました

その他 *気分転換やストレス発散法など。

美術館にいて好きな絵を眺めたり、タピオカミルクティを飲んだり、友達と食事会したり、旅行に行くなどしていました。あとは気分転換と運動不足解消のためラジオ体操をしたり、英語漬けだと頭がものすごく疲れるため日本語の映画やアニメをよく見ていました。
散歩して写真を撮ったりするのも良かったです。

5. その他

5-1. 留学先大学について

私が留学したDesign Innovationは社会人向けの大学院だったため一年で完結するプログラムを組んでおり、サービスデザインについて集中的に学びたかった私に適したプログラムでした。半年ずつ違う大学へ留学に行けるCODE留学プログラムに参加していた私は前半に参加して良かったと感じました。みんな新入生で仲良くなれるタイミングだったこと、後半では前半の知識や経験を前提に授業が進むためです。学部の授業は専門と学年を越えて受けたい授業を履修登録するスタイルのため、興味のある授業をどんどん履修して受けたい人は学部、専門的な内容を学部より高いレベルで集中的に学びたい場合は大学院が向いてると感じました。
クラスルームが狭く一部屋に60人集まって授業を受けたり、基本的にグループワークを行っていたので、自然とクラスメートと仲良くなれる環境だったと感じています。学食の味は普通です。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

私は留学先で、自分で考えること、自分の考えたことについて意見を述べること、時として人と対立したり折り合いをつけながらグループワークを進めること、初対面でも積極的に話してくれる人のいい街の方々と話す機会など、日本では見られない「人と親しくしながら自分を持つ」という文化に触れながらグループワークをできたおかげで、留学前にあった全く自信がなかったり他人に対して依存してしまう性質がなくなり、どんどん自分で行動していける性格になったと感じています。
また、周囲の人も留学してくるだけあってやる気があったり努力家の人がかなり多く、非常に刺激を受けることができ自分ももう少し頑張ろう！と辛くても課題を乗り越えられたのはいい経験でした。そうした周囲の人から学ぶことが多く、また「同じ人間のはずなんだけど何かちょっとスタンスが違うぞ」みたいなモヤモヤしたギャップを感じるのも楽しい、景色も日本となんだか毛色が違って綺麗、と行った感じで、留学先で学びたいこと、英語の実力アップなど当初の目的以上に得られたものが多かったのもので、準備が大変だったり踏ん切りがつかなくなったりするかもしれませんが、行って欲しいなという気持ちです。頑張ってください

5-3. 留学を終えて

上に大体書いたのですが、留学前と今でかなり性格が変わった自覚があり、自分で考えたり自分で意見を持って行動することの大切さを学べたことはよかったなと思っています。今までは人に怯えて怖がっていたのですが、色々な人に対して正面から、一人一人と対話できるようになってきたのは留学のおかげだと感じています。
今後はやはり就活が不安で、国内で常にと比較されながら努力してきた人と選考段階で戦わないといけないですし、コロナの状況で就職できるかがかなり不安ではあります。
ただ、今までの自分と違い、自分できちんと考えられるようになったこと、自分が今までやってきたことは無駄ではないのだという点では自信がついていますので、将来への不安はみんな持っているものと思い頑張りたいと考えます。
留学経験の表現というか、就職でのアピールの仕方がいまいまいちよくわかってないので、その点だけ不安を感じています。